

名古屋大学医学部附属病院 薬剤師レジデント制度 5 年間の概要 (2012 年～2016 年)

1. 薬剤師レジデント応募者数 (別紙 1 参照)

		2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
新 卒 者	国立大学	0	1	0	1	3
	公立大学	0	1	1	1	0
	私立大学	6	10	14	19	16
	大学院	3	1	0	2	0
既卒者		3	2	5	2	3
総数		12	15	20	25	22

2. 薬剤師レジデント採用者数

前期一般コース

		2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
新 卒 者	国立大学	0	0	0	0	1
	公立大学	0	0	0	0	0
	私立大学	4	8	7	6	5
	大学院	1	0	0	1	0
既卒者		1	0	0	1	1
総数		6	8	7	8	7

(参考)任期付正職員としての採用者数 (レジデント採用者を除く)

		2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
新 卒 者	国立大学	0	1	0	0	2
	公立大学	0	0	1	0	0
	私立大学	1	1	2	1	1
	大学院	2	0	0	1	0
既卒者		2	0	4	0	0
総数		5	2	7	2	3

2012 年～2014 年:職員枠増加のため、任期付正職員とレジデントを同時に募集。

2014 年～2016 年:退職等に伴う補充のため、本人の意思を聴取後、希望者を任期付正職員へ切替採用。

後期専門コース

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
前期修了者	-	1	2	2	2
後期のみ	-	0	0	0	0
総数	-	1	2	2	2

3. 競争倍率

採用者数(任期付正職員＋薬剤師レジデント(前期))／応募者にて算出

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
倍率	1.09	1.50	1.42	2.5	2.2

4. 薬剤師レジデント修了者数

前期一般コース

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
修了者	6	7	7	6	7
中断者	0	1	0	2	0
未修了者	0	0	0	0	0
総数	6	8	7	8	7

後期専門コース

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
修了者	-	1	2	2	2
中断者	-	0	0	0	0
未修了者	-	0	0	0	0
総数	-	1	2	2	2

(参考)後期専門コースの内訳

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
がん	-	0	0	2	0
感染制御	-	0	0	0	0
栄養サポート	-	1	2	0	1
糖尿病		0	0	0	0
精神科	-	0	0	0	0
薬物療法	-	0	0	0	1
総数	-	1	2	2	2

5. 修了者の進路(別紙 1 参照)

前期一般コース

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
名大病院	5	3	4	2	3
他の病院 ¹⁾	0	1	1	1	2
保険薬局 ²⁾	0	0	0	1	0
大学院	0	1	0	0	0
後期研修	1	2	2	2	2
総数	6	7	7	6	7

他の病院¹⁾: 三重大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院、春日井市民病院

名古屋ハートセンター、トヨタ記念病院

保険薬局²⁾: タンポポ薬局

後期専門コース

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
名大病院	-	0	0	1	0
他の病院* ³⁾	-	1	2	1	2
保険薬局	-	0	0	0	0
総数	-	1	2	2	2

他の病院³⁾: 名古屋市立大学病院、藤田保健衛生大学病院、愛知医科大学病院、東京
医科歯科大学病院、東京がん研究会有明病院、宮城厚生協会坂総合病院

6. 病棟研修で経験する症例の領域・疾患・症例数 (3 ヶ月間の合計、別紙 2 参照)

領域数 :11.8

疾患数 :32.7

症例数 :55.3

7. 自己研鑽として集合研修を行った平均の時間数*

2014 年から課題の1つとして記録を実施

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
前期研修者	-	-	89.3	96.0	73.5
後期研修者	-	-	85.0	87.9	91.2

*提出された自己研鑽サマリーから平均の時間を算出

8. 臨床研究課題 一覧

2012 年 (修了者:6 名)

前期一般コース

- ・ダガルバジンによる血管痛と遮光方法に関する研究
- ・インターネットを利用したワルファリン療法の管理に関する研究
- ・小児科がん化学療法における有害事象の発生頻度調査とその活用法に関する研究
- ・周術期の心房細動に対するジソピラミドの効果に関する研究
- ・シスプラチン投与患者において誘発される腎障害とハイドレーションに関する研究
- ・がん化学療法におけるセロトニン拮抗薬の費用対効果に関する研究

2013 年 (修了者:8 名)

前期一般コース

- ・早期経腸栄養開始後、胃内残留量に影響を与える要因に関する研究
- ・肝移植後早期のタクロリムス血中濃度変動に関与する因子に関する研究
- ・肺がん患者に対する EGFR-TKI 治療時に発現する皮膚障害とその対策に関する研究
- ・がん薬物療法時の腎機能障害に対するマグネシウムの予防効果に関する研究
- ・がん薬物療法時の併用薬剤による高用量デキサメタゾンの代謝遅延に関する研究
- ・がん薬物療法時の腎機能に関連した吃逆の発現頻度に関する研究
- ・出生体重に基づいた新生児のテイコプラニン投与設計に関する研究

後期専門コース(栄養サポート)

- ・乳がん患者に対するエリブリン投与時の副作用発現予測因子に関する研究

2014 年 (修了者:9 名)

前期一般コース

- ・リツキサンのによる infusion reaction の発現頻度の比較及びリスク要因に関する研究
- ・大腸癌を対象としたベバシズマブにおける尿蛋白の発現頻度とその関連因子に関する研究
- ・イリノテカンの副作用である嘔声・構音障害の発現時期に関する研究
- ・肺癌化学療法 CDDP+VNR 療法と CDDP+PEM 療法における制吐支持療法の効果に関する比較研究
- ・パーキンソン病に対する脳深部刺激療法後の薬剤減量可能因子に関する研究
- ・当院における全人工股関節置換術 (THA)、人工膝関節置換術 (TKA) 施行患者の術後 IV-PCA の評価に関する研究
- ・当院における非ホジキンリンパ腫への大量ステロイド使用と離脱症の発生に関する研究

後期専門コース(栄養サポート)

- ・ 早期経腸栄養開始、胃内残留量に影響を与える要因に関する研究
- ・ 持続透析濾過療法による血清リン値の低下量に関する研究

2015 年 (修了者:8 名)

前期一般コース

- ・ シスプラチンレジメン施行患者における低ナトリウム血症の発現予測因子
- ・ 転倒転落アセスメントシート薬剤使用スコアにおける評価法の検討と評価システムの構築
- ・ 低体重患者におけるパクリタキセル投与時の有害事象の発現状況に関する調査
- ・ ブルーレター発現前後の薬剤適正使用と有害事象発現状況から見たブルーレターの有用性の評価
- ・ 高齢者の多剤併用と薬剤の不適切使用に関する横断的調査
- ・ 高齢者へのバンコマイシン初回投与量の設計に関する検討

後期専門コース(がん)

- ・ イリノテカンの副作用である嘔声・構音障害の発現要因に関する前向き研究
- ・ がん疼痛に対しオキシコドン導入となった患者におけるポリファーマシーの実態調査

2016 年 (修了者:9 名)

前期一般コース

- ・ 関節リウマチ患者のインフリキシマブ投与継続に関連する因子の探索
- ・ パゾパニブの投与継続に影響を与える因子に関する調査
- ・ テモゾロミド併用放射線療法の悪心・嘔吐に対するセロトニン受容体拮抗薬の効果
- ・ 抗血小板薬内服継続下での腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術の安全性の検討
- ・ ドリペネムの高用量投与の安全性及び有効性の検討
- ・ 高齢者における活性型ビタミン D3 製剤の副作用発現率
- ・ 侵入奇胎 MTX 筋注療法における口腔粘膜炎に関与する因子とその予防・治療の有効性に関する検討

後期専門コース(栄養サポート、薬物療法)

- ・ 頭頸部癌化学放射線療法におけるシスプラチン用量決定因子の探索
- ・ 薬剤師医療情報提供書を用いた薬剤師間の連携強化への取り組み

9. レジデントが実施した臨床研究課題の学会発表(件数)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
医療薬学会年会	0	1	1	0	2
医療薬学フォーラム	0	1	0	3	0
レジデントフォーラム	0	0	0	2	8
その他	0	2	1	2	1
合計	0	4	2	7	11

レジデントおよび当院薬剤部職員として在職中に発表した演題について、発表年度で集計

10. 筆頭執筆者としての原著論文

1) 西垣 和香

2016年 前期 一般コース 修了

2017年 後期 薬物療法専門コース 修了

西垣和香、市川和哉、渡邊雄貴、堀田彰悟、千崎康司、山田清文 「高齢者におけるSTOP-J、Beers、SOPP v2 を用いた薬剤使用状況の調査」 日本病院薬剤師会雑誌 vol.54 (2), 2018

11. 認定・専門薬剤師等の取得状況

1) 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士(2名)

今井 一輝

2012年 前期 一般コース 修了

2013年 後期 栄養サポート専門コース 修了

岩野 美紀

2013年 前期 一般コース 修了

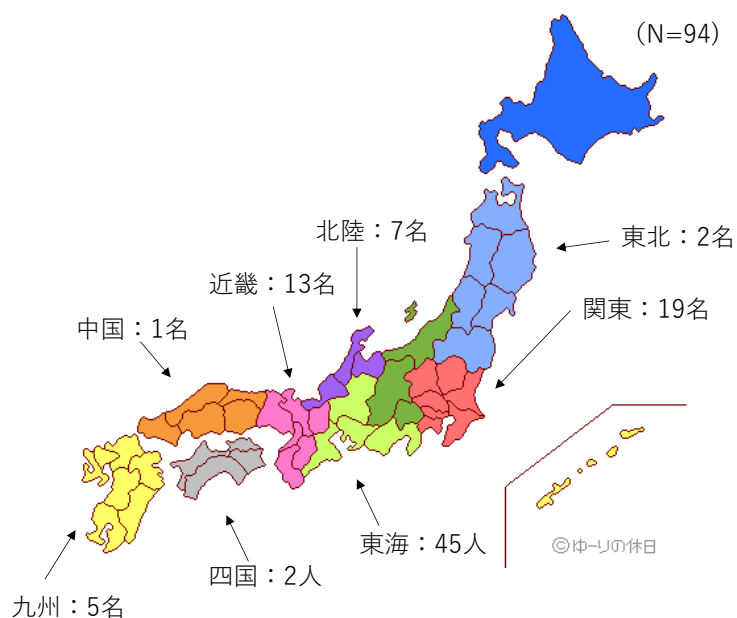
2014年 後期 栄養サポート専門コース 修了

2) 日本薬剤師研修センター 小児薬物療法認定薬剤師(1名)

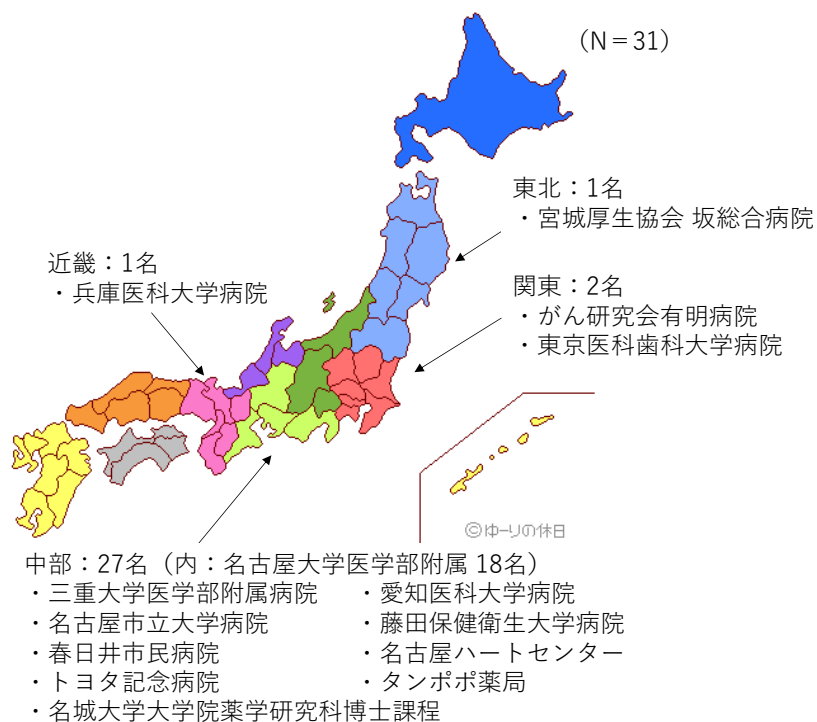
伊藤 慎智子

2013年 前期 一般コース 修了

薬剤師レジデント応募者(出身大学所在地別)



薬剤師レジデント研修修了後の進路(施設所在地別)



病棟研修で経験する症例に関する実態調査（2016 年のみ実施）

対象者:平成 28 年度に名古屋大学医学部附属病院に在籍している薬剤師レジデント:9 名
 (前期研修:7 名、後期研修:2 名)

調査期間: 1 病棟目: 6—8 月研修 → 調査月: 7 月
 2 病棟目: 9—11 月研修 → 調査月: 10 月
 3 病棟目: 12—3 月研修 → 調査月: 1 月

調査内容:

日本医療薬学会「薬物療法専門薬剤師養成研修コアカリキュラム」に準じ、領域および疾患をカウント。同カリキュラムに記載されていない特殊な疾患については、領域毎に「その他の疾患」として分類した。なお、経験疾患数は、以下のいずれかに該当する場合をカウントとした。

- ・入院の契機となった疾患
- ・入院の契機となった疾患以外の合併症・慢性疾患のうち、入院中に薬物治療を継続しており、かつ、服薬指導の際に薬学的な評価を行った疾患

結果:

領域 ()は主要な疾患数	薬剤師レジデント (N=9)									平均
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	
1. 精神疾患(8)	1	1	1	2	2	7	1		2	1.9
2. 神経・筋疾患(8)	5	1	1	1	1	1		5		1.7
3. 骨・関節疾患(4)		3	3				1	3		1.1
4. 免疫疾患(6)	1	1	1	1	1	3		1	2	1.2
5. 心臓・血管系疾患(12)	2	1	2	5	3	4	2	1	4	2.7
6. 腎・泌尿器疾患(8)	2	1	3		2	1	1	3	2	1.7
7. 産科婦人科疾患(9)										0.0
8. 呼吸器疾患(7)	1				2	1		1	2	0.8
9. 消化器疾患(16)	4	5	6	3	8	9	3	2	3	4.8
10. 血液・造血器疾患(7)				2	1		2	1	1	0.8
11. 感覚器疾患(11)	1			1		1		1	3	0.8
12. 内分泌・代謝疾患(7)	1	4		1	1	1	1	3	2	1.6
13. 皮膚疾患(9)	1	1			2	3		1	1	1.0
14. 感染症(16)		2	1	3	3	1	1	4	2	1.9
15. 悪性腫瘍(22)	1	12	8	6	9	1	11	1	9	9.4
16. その他(4)	1	1	1	2	1	2		2	3	1.4
領域数 (MAX:16)	12	12	9	11	13	12	10	14	13	11.8
疾患数 (MAX:154)	30	33	27	27	36	44	23	38	36	32.7
症例数	39	51	55	36	63	77	49	66	62	55.3